

# この苗木から、 山と人の未来が始まる。



石央森林組合（島根県浜田市）

## 林業と地域が手を取りあう、新しい未来のつくり方。

山で木を伐採し、使い、新たに植えて、育てる。長い年月をかけて、その循環をいかに作っていかけるか。日本の林業が抱えるそんな課題を解決する新しい挑戦が、島根県の石央森林組合で始まっています。

### カンタンに植えられる苗をつくらう。

いま、日本では戦後に植えられた木の多くが伐採期を迎え、たくさんの山で伐採が進んでいます。一方で、伐採後ももう一度木を植えるための苗木が全国的に不足している、という状況が起こっています。そこで、石央森林組合が取り組むのが、「コンテナ苗」と呼ばれる新しい苗木の開発。育苗期間も短く病気も少ない。しかも植林作業がラクなため、これまでに比べて、より効率的に「木を新たに植えて育てる」ことができる。まさに、循環型林業の確立を実現する鍵といえる商品です。そして、石央のコンテナ苗には、独自の工夫がほどこされていました。コンテナ苗の試作を続けてきた久保田さんは、つぎのように語ります。「苗の培土に

炭灰を配合しているんです」その工夫で、苗の発芽率が格段に向上するのだそうです。さらに石央のコンテナ苗は、どんな季節にも発芽しやすく、冬場になるとへってしまう地域の仕事をふやすことにもつながっていくといいます。



石央森林組合 久保田賢也さん

### 林業が、社会復帰の支援につながっている。

でも、石央のコンテナ苗が何より画期的なのは、その生産方法にあります。「じつは、島根あさひ社会復帰促進センター

（法務省管轄の刑事施設）の人たちと連携して、コンテナ苗を育てているんです」もう一度社会に復帰しようとしている人へ、この町の林業ができることはないか。地域全体でそう考えていたとき、コンテナ苗の生産を手伝ってもらったアイデアが生まれたそうです。土にふれる時間をとおして、社会復帰を支援する。同時に、センターの人たちのチカラで、コンテナ苗を低コストで生産する。この新しい連携は、地域林業のつぎのモデルとなりえる大きな可能性を秘めています。さらに、みらい基金からの助成をもとに、コンテナ苗を育成するハウスを新たに建設。そこで地域の高齢者を積極的に雇用しながら、コンテナ苗の生産・販売の拡大へ向け、プロジェクトは着実に進化を続けています。「センターから社会に復帰したとき、もし石央で林業に携わりたいという方が出てきたら、ぜひこの町で働いてほしい」と語る久保田さん。林業と地域の連携で石央の循環型林業が実現すれば、やがては、全国からこの町で働きたいという若者がきっと集まってきてくれる。そんな大きな未来図も描いています。



### いつの日か、日本中の山へ。

植林に必要な苗木が全国的に不足しているいま、石央森林組合から生まれたコンテナ苗が、やがて、日本のさまざまな山に植えられていく。林業と地域が手を取りあった、石央の新しい取り組みを見ていると、そんな日も決して遠くはなさそうです。ここには、日本の林業の未来が、ひと足早く芽吹いていました。

## 石央森林組合 + 農林水産業みらい基金

林業と地域が手を取り合い、循環型林業の実現へ。この取り組みは、林業をとおした社会貢献や、地域に新しい産業を根付かせる可能性に満ちている。私たちはそこに大きな期待をこめて、助成を決定しました。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。



一般社団法人  
農林水産業みらい基金

詳しくは [農林水産業みらい基金](http://www.miraikin.org/) 検索 [www.miraikin.org/](http://www.miraikin.org/)